

新しいまちづくりを考えるシンポジウム開催

「基調講演とパネルディスカッションで

寺泊町の将来を展望へ

1月27日、文化センター「はまなす」を開催されたシンポジウムには、町内外から418名の皆さんに集まり、「活性化論議され始めた合併問題」について、基調講演やパネルディスカッションが行われました。

国や県からの優遇支援策が受けられる、合併特例法の期限は平成17年3月。厳しい財政状況の中、寺泊町の将来像をどのように描くか、皆さんと情報を共有して取り組んでいきます。

基調講演



講師：新潟日報社編集委員室長
望月迪洋氏

合併問題の一番の 引き金は財政問題

新潟日報社編集委員室長望月迪洋氏の基調講演では、ブル経済崩壊後の国や地方の危機的な財政状況の現状と、

市町村の財源にとって大きなウェイトを占める地方交付税制度の見直し、経済成長や将来人口の見通しから見る市町村合併。小泉内閣の登場と急速な合併の推進や合併問題と絡みあう地方分権、地方制度改革について講演され、合併問題は、「新しいまち」の産業、環境、教育、老人福祉などについてのビジョンや財政的裏づけを描き、「合併の是非」や「具体的な組み合わせ」を議論したほうがよいと結びました。



パネル ディスカッション

**町づくりの基本は、
知と富を生み出す
多様な都市づくり**

合併が避けて通れないとしたら、平野面積の広さ、地場産業の多さ、財政状況などを考えると西蒲原南地区との合併が、多様な都市づくり実現への可能性が高い。

小越忠教氏(夏戸)



↑高橋町長

健全財政を維持しながら、充実した医療・老人福祉などの住民サービスを維持していくことは困難な状況である。

**財源の見通しを
正確につかんだ上で
将来展望を**

祖先が培ってくれた産業や文化が衰退することなく発展し、時代に沿った教育や福祉の充実がさらに図られるような町づくりを進めることが大事。

遠藤進氏(高内)

平成の大合併はおおいに問題あり

国に対して、全国町村会の決議において合併の強制や地方交付税の削減に反対する中、全国の自治体が国を攻めれば、皆さんの町が無くなるような事にはならない。

福島富氏
(にいがた自治体問題研究所)

**全体的な現状からして
合併は避けて通れない**

それぞれの地域の伝統文化を守りながら、サービスがかたよらないような都市づくりを審議会制度などを利用して考えていくことが大事。

中村興樹氏(上片町)

参加者の声

高橋剛さん(竹森)

本格的な議論が町民的に始まった第一歩だというパネラーがおられましたが、私もフロアから参加していました。問題だと思ったのは、にいがた自治体研究所の福島富さんを除いて、報告者もパネラーもすべてが合併賛成論者であったことには、企画した町の姿勢が問われると思いました。コーディネーターを賛成論の基調報告者にさせたのも問題があります。しかし、全体としてシンポジウムは成功したと思います。成功のために奮闘された皆さんに敬意を表し、町民が主人公を今後も貫いていただきたいと思います。



「ここにちはー」と声をかけたことから始まった地域交流

、夏戸小学校2年生とゲートボール愛好会とのふれあい、

町内小・中学校では、変化の激しい社会をたくましく生きる児童生徒を育成するため、保護者や地域住民と一緒に事業に取組む「チャレンジ21教育推進運動」を実施しています。

夏戸小学校では、「わくわくどきどき ふれあう心 ふるえる心」をテーマに、人とのふれあいと感動を大切にしています。

がら、子どもたちの健やかな成長を願い実践しています。昨年の9月、2年生の皆さんが生活科授業（地域探検）で、地域に出かけゲートボールを楽しんでいるおじいちゃんたちに「ここにちはー！」と、声を掛けたことがきっかけで交流が始まりました。ルールを知らない子どもたちは、手取り足取り優しく教えてもらいました。

おじいちゃんやおばあちゃんから、あやとりやお手玉、コマやけん玉などの昔の遊びを優しく教えてもらい一緒に楽しみました。

い楽しい時間を過ごしました。

後日、お札の手紙や写真を渡して交流を深め、2月6日開かれた「草もちパーティー」の招待状を送りました。パーティ当日には、手作りのあ

んこや漬物、竹とんぼやメンコなどを持ち寄ってきたお年寄りと一緒に、草もちを作つたり昔の遊びを楽しんだりと、温かい交流の輪が広がりました。

子どもたちは、「雪が消える頃、また一緒にゲートボールをしようね。」と約束し、手紙のやり取りを今も続けています。

4月から学校週5日制が実施され、子どもたちと地域との関わりが今まで以上に大切になります。学校、家庭、地域が協力して、21世紀を担う寺泊町の大事な「宝」を育んで行きましょう。



30回のアジャサバを選別

大型まき網漁船といよ丸が水揚げした鰯や鰆の選別作業が、2月14日、漁業協同組合脇の選別機で行われ、漁協組合員の皆さんが寒風の吹くなか忙しく作業におわれていました。箱詰めされた魚は、県内外に出荷されご家庭の食卓に並ぶことでしょう。漁協の荷さばき所には、アンコウ・ヒラメ・タコ・タラの姿が多くみられるようです。

待ち遠しい「春」は
もう少しで
やってきます



大型まき網漁船といよ丸が水揚げした鰯や鰆の選別作業が、2月14日、漁業協同組合脇の選別機で行われ、漁協組合員の皆さんが寒風の吹くなか忙しく作業におわれていました。箱詰めされた魚は、県内外に出荷されご家庭の食卓に並ぶことでしょう。漁協の荷さばき所には、アンコウ・ヒラメ・タコ・タラの姿が多くみられるようです。



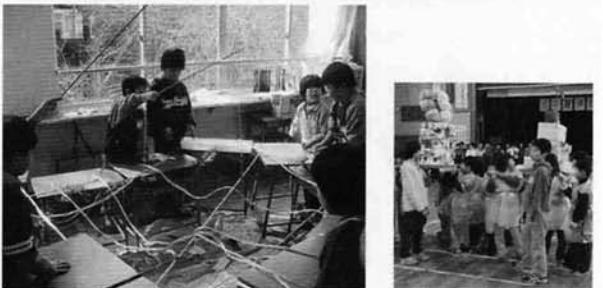
祭だわっしょいあらなみ祭

2月2日、寺泊小学校児童会が主催する「あらなみ祭り」が開催され、保護者の皆さんが見守る中、子どもたちの生き生きとした顔が会場いっぱいにあふれていました。

お祭りのオープニングは、「わっしょい！わっしょい！」と元気な掛け声をあげていました。続いて、あらなみ太鼓クラブの威勢のいいバチさばきと、3・4年生のリズムの良い掛け声の中、全校児童が保護者と一緒に「あらなみ音頭」を元気よく踊りました。

お祭りといえど出店。総合学習での経験を生かした3年生の「釣り」や、テレビ番組

からヒントを得た「ストラッカビング」（5年生）など、工夫を凝らした出店が店開き。高学年が低学年にゲームのやり方を優しく教える姿や、出店でもらった手作りの景品を自慢し合うなど微笑ましい光景があちこちで見られました。



昨年ゲートボール場での出会いから始まった、あったか~い交流

「空き缶等のポイ捨て防止及び 飼い犬等のふん処理」にご協力を!

道脇に「空き缶」等が落ちていたり、公園、海岸などを見ると「犬の糞」などがあつたりして、いやな思いをした

ことがありますんか?

寺泊町では、平成10年7月に「寺泊町空き缶等散乱及びふん害の防止に関する条例」

を制定し、空き缶等のポイ捨て防止及びふん害のない町づくりを推進しています。

「観光の町」寺泊の美しい環境を汚さず、清潔で美しい環境を守りましょう。



まちを きれいに!
マナーがつくるきれいな環境

平成14年4月~いよいよスタート

完全学校週5日制!!

学校週5日制のめざすもの

地域社会では

学校週5日制は、学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割のなかで協力し、豊かな学習・体験活動を子どもたちに提供することにより、子どもたちが自分で考えて行動できる力や周りの人を思いやる心、健やかな体など「生きる力」をはぐくることを目的としています。



学校では

児童・生徒がじっくり学ぶことをとおして基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自ら学び自ら考える力を育てます。

家庭では

子どもたちの家庭で過ごす時間が増えることから、家族のふれあいをとおして、社会で生活していく上で必要な基本的な生活習慣や生活能力などをきちんと身につけさせることが大切です。

そのため、私たち大人は互いに知恵や力を合わせ、それとの持ち味を生かしながら、子どもたちと一緒に活動したり指導者として積極的に子どもたちとかかわりながら、思いやりの心や善悪の判断、社会生活上のルールを守る心を育てる等、地域ぐるみで子どもたちをはぐくんでいくことが大切です。



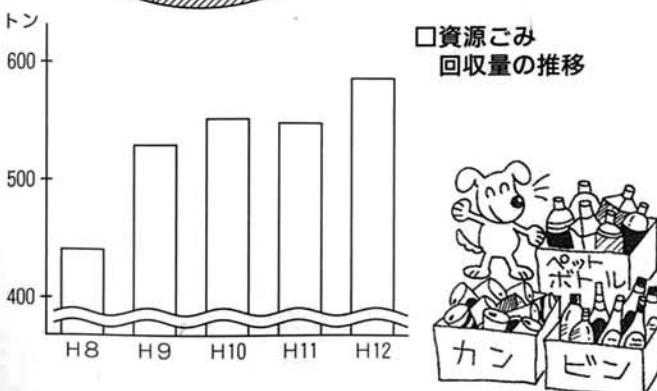
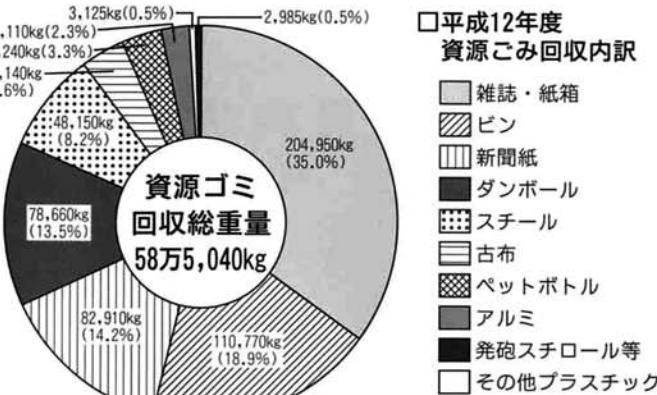
□やめようポイ捨て

皆さん1人ひとりが空き缶等のポイ捨てをしないようにするとともに、飲食料品を自動販売機で販売する業者さんは、空き缶等が散乱しないよう回収容器を適正に設置し、管理するようお願いします。

□犬や猫のふんは直ちに回収

犬や猫の飼い主さんは、ふんを処理するための用具を携行し、公共の場所でふんをしたときは、直ちに回収し、又は、公園や遊園地の砂場には、飼い犬等を立ち入らせないでください。

※ポイ捨ての禁止、自動販売機の空き缶等回収容器の設置と適正管理、飼い犬等のふんの適正処理の規定に違反した者に対して、町は必要な措置を講ずるよう勧告、命令または町の広報紙等で住所、氏名等を公表することができますとなっています。



今まで、夏期を除き隔月に収集しておりましたペットボトルなどの資源ごみを、4月から毎月収集する予定です。平成10年から始まつたペットボトル等の回収は、皆さんご協力により回収量が増えています。

※収集日は、全戸に配布する「平成14年度ごみ収集日程表」に記載しておりますので、注意事項等を確認のうえ収集場所に出してください。

ペットボトル・食品下駄。
発泡スチロール。その他プラスチックごみの資源ごみを毎月収集!!

